

東京交通労働組合
総代会

園 正 巳
葛山久蔵

等ハ十二日午後四時内相及卿ヲ訪問シ火臣(園下)ト会見、上
別記決議文ヲ提出シ三輪青吐ヨリ纏々陳情、上辭肅ニ退却
セリ

右及申(通)報候也

別記

決 議

現政府の不用意なる全解雇の断行と更にその喝導する産業合理化政策とは産業資
材界の利用する処となり其結果幾多の労働組合は財界不況と名として突如減給を
声援し或は産業界に一大破滅を捲き起した。我等も抵抗力弱き我等の陣営に對す
るこの批發は労働組合法により労働者の團結をなすに起るるとの認識に基き、且
現政府は組合法制定の公約を果すべき責務あることと信じ来るべき特別議案に於
て労働者の團結を確保する労働組合法を制定せんことを要求す

昭和十三年四月二十三日

別記

◇ 鐘紡の減給問題に就て

労働団体の幹部が眞面目に働いてゐる人等を煽動して自分達の利益を怨や衣食の質を得やうと
する芝居は眼惑と水くもいりやい。鐘紡の賃金は他の紡績会社より低くはなして今迄頗る高率
を示してゐることは天下周知の事實である。今回突然に減給を宣言するや所謂労働者の
一カ一は概念を棄ちしとして流石に非難を放ち廻りに策動してゐる。諸君も現下の日本は
かゝる悲觀主義の狀態にあることを知つて居らるゝであらう。減給が如何なる動機に基いてゐ
るかは眼を俟たずして解つてゐるべきであらう。一時の首動か自己の破滅のみならず引いては日本の社稷を危
くするものなり。切に自重と加害するべからざる。

日本労働研究會